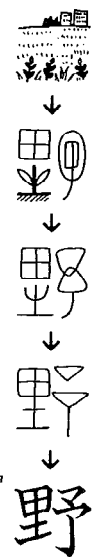


野

二年
筆順
ク
ン
の

11
口 日 甲 里 野 野

成り立ち



「ものごとの『手まえ』」といういみの『予(3年430)』と『里』とをくみあわせてつくった字です。

「『村里』の『手まえ』にひろがっている『野原』」のことをあらわした字です。

『野』も『原(2年122)』も、「たいらなとち」のことをあらわした字で、「しぜんのままにくさが生えているところ」ですから、「しぜん」とか、「しぜんのままのありさま」といういみにもつかわれます。

使い方

▽はるになると、野原は、花やくさでいっぱいになります。野生の花は、小さいけれど、かわいくて、野原いっぱいさいているところは、とてもきれいです。

▽ぼくは野球がすきです。外野をまもっていて、六本だしやです。

▽名もしらぬ野草がたくさん生えていました。

熟語例

▽野原(くさなどがはえた、たいらな、ひろいとち)

▽野生(どうぶつや、しよくぶつが、しぜんのままにそだつこと。「アフリカは、野生どうぶつのほうこです」といえば、アフリカには、野生のどうぶつが、ひじょうにたくさんいる、ということです。)

▽野鳥(しぜんに生えている草)

▽野鳥(野生の鳥。「ぼうえんきょうで、野鳥をかんさつするのは、とてもおもしろい」などというふうにかきます。)

▽野蛮(しぜんのまま、文化がそだっていないこと。また、きょうようがなく、らんぼうなこと。)

友

二年
筆順
ク
ン
の

4
一 ナ 方 友

成り立ち



手のかたちをあらわした「ナ」と「又」とが「まじわる」かたち、つまり『握手(手を握りあうこと)』「するかたちをあらわした字です。

なかのよい「とも」だちをあらわした字です。

むかしの字は「爰」というかたちで、手と手とをかさねた字でした。むかしは、あい手の手の上に手をのせて『友情』をあらわしたからです。

使い方

▽ぼくには、友だちが大ぜいいます。でも、いちばん大すきな友だちは、木村くんです。

▽むかし、スペインというくに、ドン・カルロという王子さまがいました。ドン・カルロには、ロドリゴという、大へんなかのよい友だちがいました。二人はいつもいっしょでした。ロドリゴは、さいごに、親友のドン・カルロのためににしました。

熟語例

▽親友(親しい友だち。なかのいい友だち)

▽良友(良い友だち。じぶんにとって、ためになる友だち)

▽悪友(悪い友だち。じぶんが悪いいきょうをあたる友だち)

▽学友(おなじ学校で、いっしょにべんきょうをしている友だち)

▽旧友(むかしからの友だち。または、むかしの友だち)

▽知友(じぶんのことをよく知って、よいところをみとめてくれている友だち)

▽盟友(なにかをしようと、かたくちかった友だち)